

# セルフレジ販売に本腰

## 光和コンピューター

### 21年末までに50書店導入へ

### 書店アンケート「関心ある」40%超

光和コンピューターは来年から書店向けセルフレジ、「KPOSセルフ」の販売を本格的に推進していく。12月初旬、全国の書店250法人を対象にしたアンケート調査で、4割以上の書店がセルフレジに「関心がある」と回答。新型コロナウイルス感染者が全国で増加し、アルバイトが集まらない書店経営者の危機感が高まっている。同社ではこの結果を受け、2021年末までに50書店へ導入していく。

### 宮脇書店 越谷店 客の2〜3割が利用

光和コンピューターは今年8月、来店客自身が決済できる「KPOSセルフ」を開発。同月にくまざわ書店武蔵小金井北口店（東京）が導入、9月には宮脇書店越谷店（埼玉）が導入を前提にしてテスト運用を始めて

いる。操作は、①ポイントカードの有無を選択、②商品を選択、③決済、④レシート発行とシンプルだ。書籍・ムックなどのISBN、雑誌コード、文具・雑貨などに表示されるJANコードにも対応。店舗独自のポイントカードもハウスカードも使用可能で、決済方法は現金、クレジットカード、電子マネー、各種Payが選択できる。さらに「KPOSセルフ」は、書店のスタッフがスキャン、カバレッジを行った後、客自身が決済する「セミセルフ」としても使用できる。



宮脇書店越谷店に設置された「KPOSセルフ」

宮脇書店越谷店では、レジ横に1台設置。同店の加藤克宜社長は、手数料が発生するク

レジットカード、各種Payなどの運用には慎重で、いまは「現金決済」に限定している。それでも購入者の2〜3割程度がKPOSセルフを利用して決済しているという。通常の対面レジを避け、「すぐに買って帰りたい」という客が多いようだ。また、同店では「鬼滅

の刃」（集英社）23巻の発売日だった12月4日、操作に戸惑う客で店内に列ができないよう「セミセルフ型」に切り替えて「客を捌いた」。フルセルフ型での決済時間は1〜2分だが、書店スタッフが手伝うセミセルフ型の方が2倍以上速いという。

セルフレジに「関心がある」という書店が多いのは、新型コロナウイルスの感染予防対策のほか、「アルバイトが集まらない」「社員に有給休暇をとらせたい」という内部事情も背景にある。現在、紀伊國屋書店や三洋堂書店、JR東日本リテールネットなど一部店舗でもセルフレジを導入しており、今後さらに増

えそうだ。「KPOSセルフ」の価格は170万円（POSレジ本体、スキャナー、プリンター、釣り銭機、筐体什器込み）。オプションで、クレジットカー

ド・電子マネーの決済端末（5万円）、トラブルや店員の呼出しを知らせる「パトライト」（6万5000円）がある。

光和コンピューターでは、セルフレジを2台購入した場合、約2年半でアルバイト1人分の人件費が回収できると試算している。